分析事例

(1)	49歳以下の基幹的農業従事者数の割合 (市区町村別・農業集落別)	P 1
(2)	10年後の地域の姿 (市区町村別・農業集落別)	P 2~3
(3)	有機農業に取り組んでいる経営体数の割合 (農業集落別)	P 4
(4)	1 経営体あたり経営耕地面積の推移 (農業集落別)	P 5
(5)	農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合 と主要部門(市区町村別・農業集落別)	P6~7
(6)	後継者を確保している経営体の状況 (農業集落別)	P 8

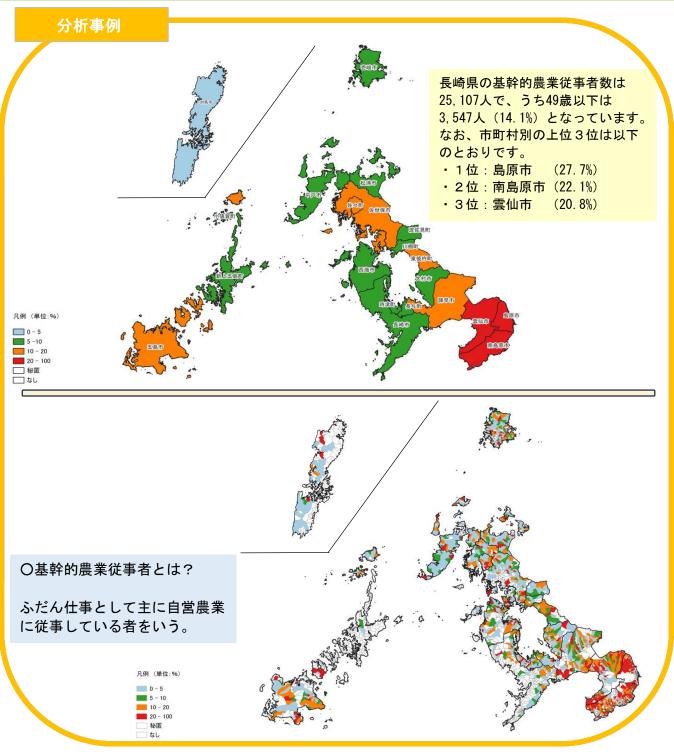
(分析事例) 49歳以下の基幹的農業従事者の割合

(長崎県)

<分析の視点等>

○基幹的農業従事者のうち49歳以下の割合をみる。

基幹的農業従事者数のうち、49歳以下(男女計)の構成割合を算出し、市区町村別や 農業集落別にみることで、それぞれの地域における担い手の状況を明らかにする。



出典:2020年農林業センサス 九州農政局統計部

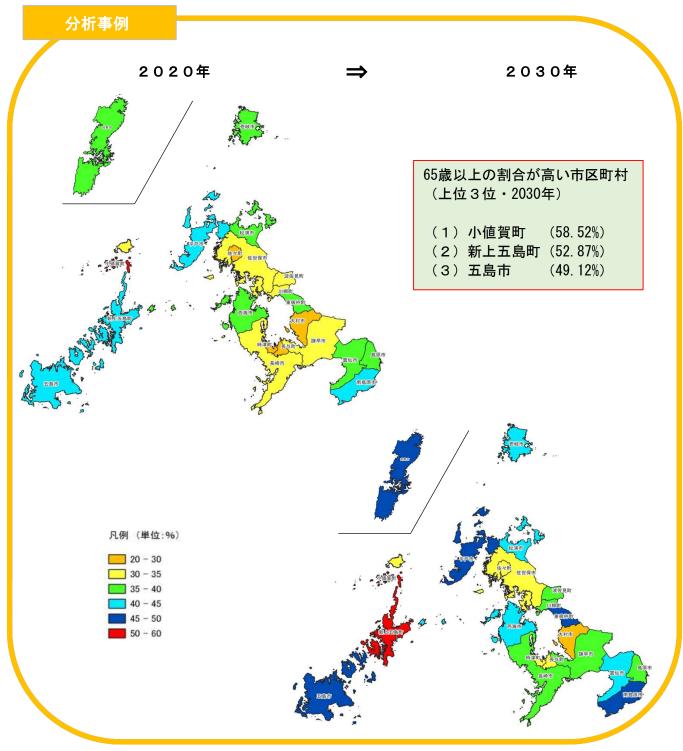
(分析事例) 10年後の地域の姿(65歳以上の割合の推移)

(長崎県)

<分析の視点等>

○国勢調査結果と将来推計人口から現在と10年後の地域の姿を比較する。

65歳以上の割合を2020年と2030年の10年間で市区町村別に比較し10年後 の市区町村の姿を可視化して状況を明らかにすることで、地域活性化への施策に活用する。



出典:令和2年国勢調査(男女·年齢別人口) 将来推計人口(2030年)

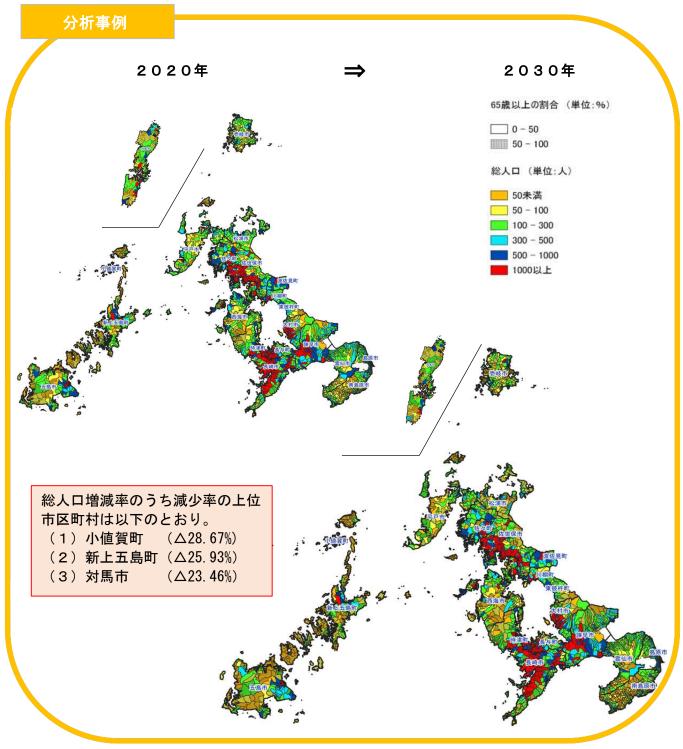
(分析事例) 10年後の地域の姿 (総人口と65歳以上の推移)

(長崎県)

<分析の視点等>

〇国勢調査結果と将来推計人口から現在と10年後の地域の姿を比較する。

人口分布と65歳以上の割合を2020年と2030年の10年間で農業集落別に比較 し10年後の農業集落の姿を可視化して状況を明らかにすることで、地域活性化への施策 に活用する。



出典:令和2年国勢調査(男女·年齢別人口) 将来推計人口(2030年)

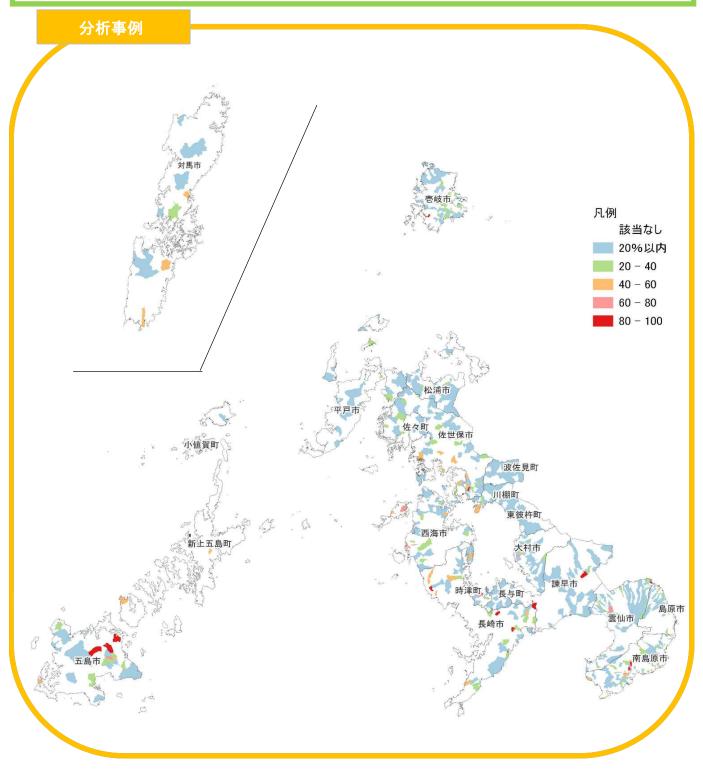
(分析事例) 有機農業に取り組んでいる経営体数の割合

(長崎県)

<分析の視点等>

○有機農業に取り組んでいる経営体数の割合をみる。

農業経営体のうち有機農業に取り組んでいる経営体の取組み割合を農業集落別に把握し、 「みどりの食料システム戦略」等の施策推進に向けた現場の状況を明らかにする。



出典:2020年農林業センサス 九州農政局統計部

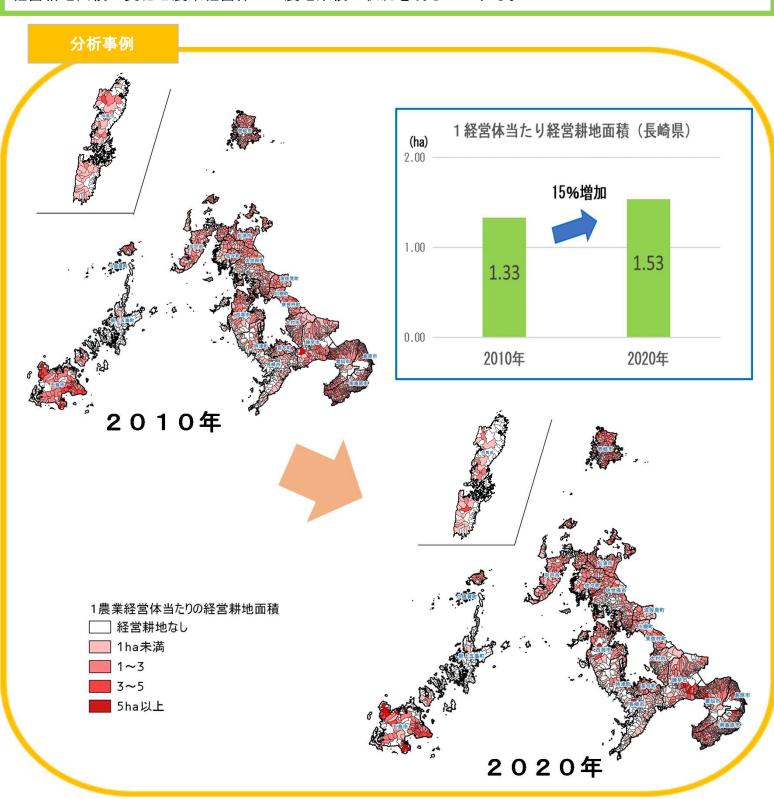
(分析事例) 1経営体当たり経営耕地面積の推移

(長崎県)

<分析の視点等>

○農業経営体の経営耕地面積の推移をみる。

1農業経営体当たりの経営耕地面積について、2010年と2020年の10年間を農業集落別に比較し、経営耕地面積の変化と農業経営体への農地集積の状況を明らかにする。



出典: 2010年・2020年農林業センサス

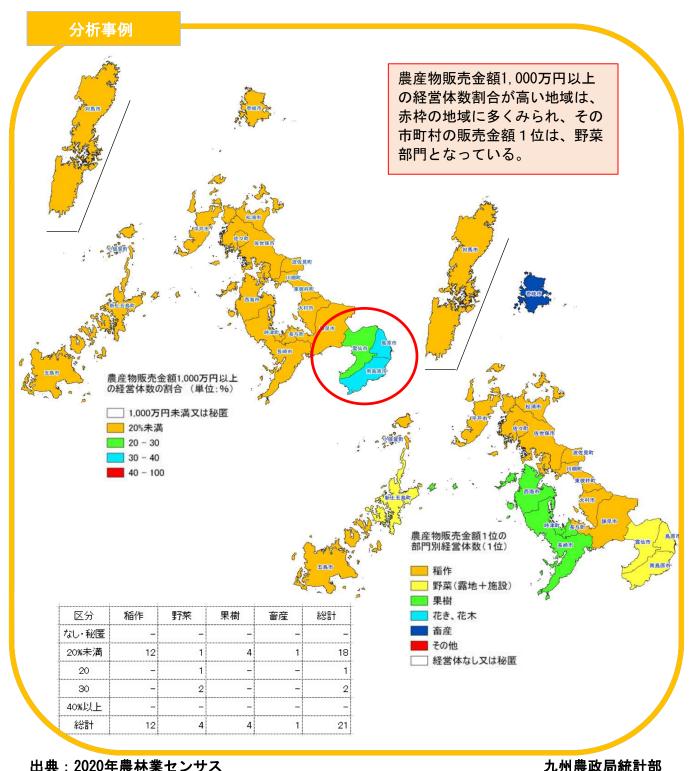
(分析事例)農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と主要部門

(長崎県)

<分析の視点等>

〇農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と販売金額1位の部門別経営体数をみる。

農産物販売金額が1,000万円以上の農業経営体数の割合と農産物販売金額1位の部門を 市町村別にみることにより、地域で作付けされている主要な作目と販売金額の関係を明 らかにする。



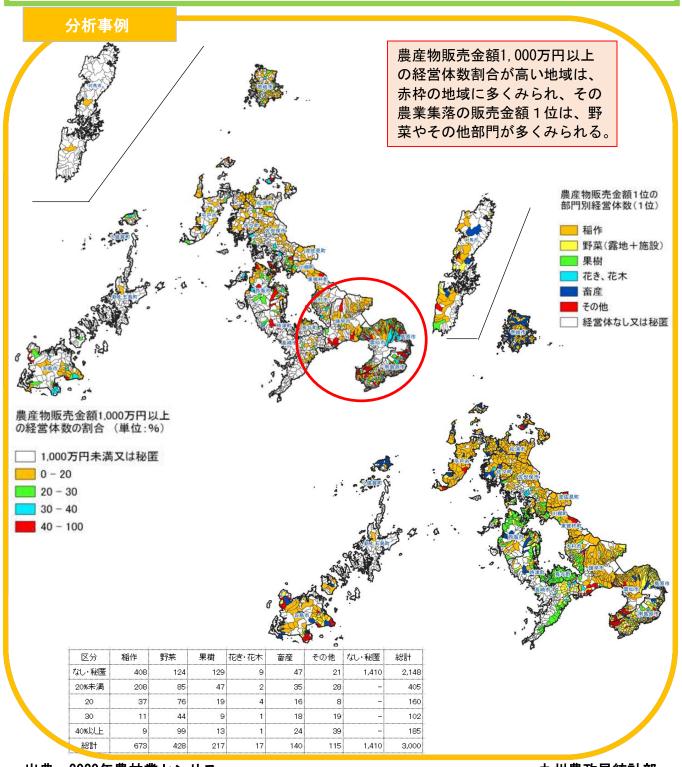
(分析事例)農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と主要部門

(長崎県)

<分析の視点等>

〇農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と販売金額1位の部門別経営体数をみる。

農産物販売金額が1,000万円以上の農業経営体数の割合と農産物販売金額1位の部門を 農業集落別にみることにより、地域で作付けされている主要な作目と販売金額の関係を 明らかにする。



出典:2020年農林業センサス

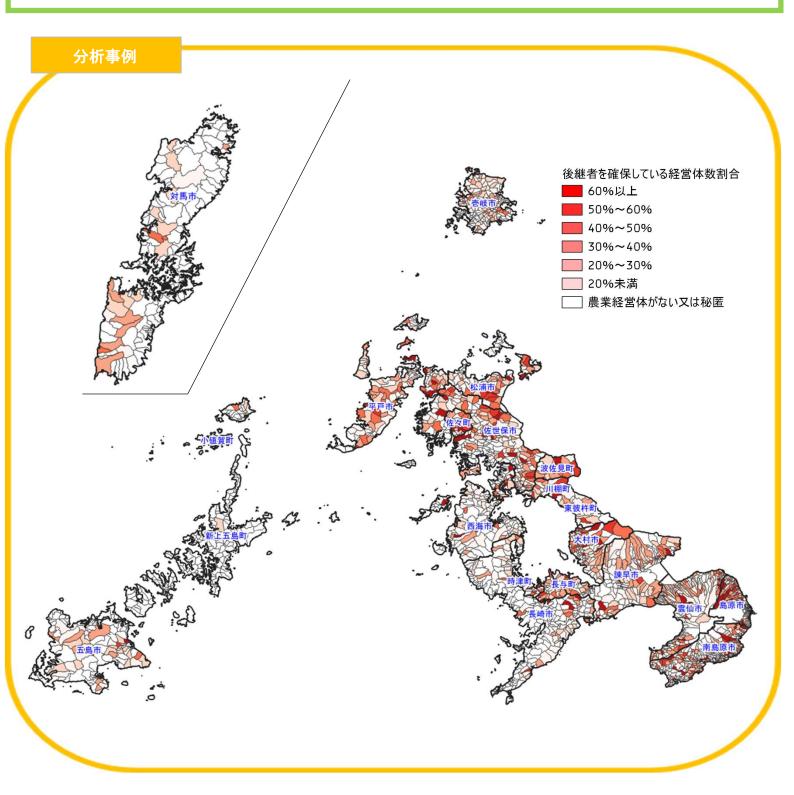
(分析事例)後継者を確保している経営体の状況

(長崎県)

<分析の視点等>

○後継者の確保状況を農業集落別にみる。

後継者を確保している経営体数の割合を地図上で色分けして確保状況をより理解しやすく工夫。



出典:2020年農林業センサス